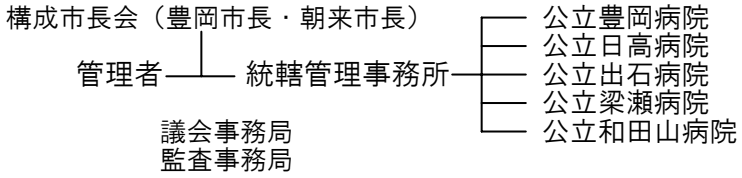
III　組合立病院の状況

1 公立豊岡病院組合

病院組合の組織

「公立豊岡病院組合」は、豊岡市と朝来市が設立する「一部事務組合」であり、かつ、５つの病院を経営する「地方公営企業」である。1086名（H16年度末・正職員）が在籍する。

組織図（概要）



収益

平成16年度の病院事業収益は約170億円あり、その内訳は、医業収益（診療による収入）が154億円(90%)、国・県からの補助金が2億円(1%)、構成市の負担分13億円(8%)等となっている。

費用

平成16年度の病院事業費用は約176億円、そのうち159億円(90%)が医業費用（診療のための費用）であり、その内訳は、人件費93億円(58%)、材料費43億円(27%)、経費15億円(10%)等である。

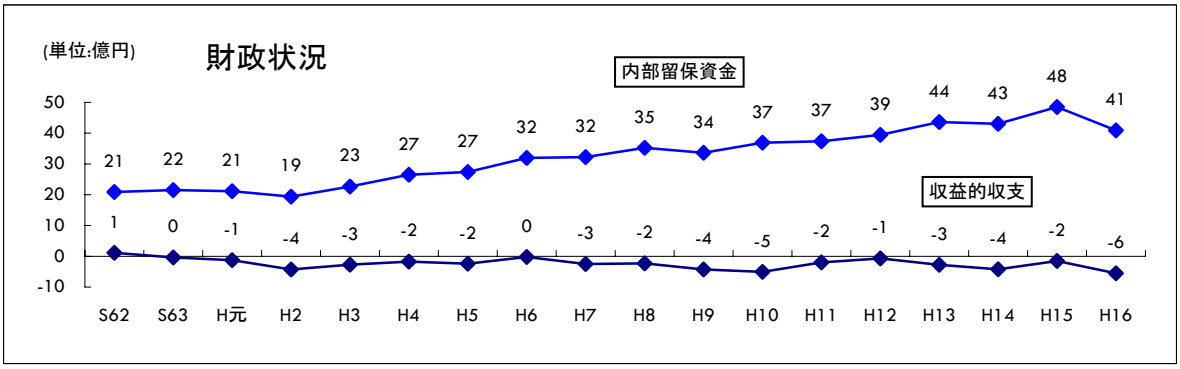
なお、医業収支比率（収入を得るために必要な費用の割合）は、103.6%となっている。

財政状況

病院組合の収益的収支（診療に関する収支）は、昭和63年(1988年)以後赤字が続いている。

内部留保資金（短期間で現金化が可能な資金）は、支出項目に現金の支出を伴わないもの（減価償却費など）が多く含まれていることから、おおよそ増加傾向が続いてきた。

しかし、平成16年度に6億円、平成17年度は38億円の赤字となり、内部留保資金は34億円まで減少する見込みである上、平成18年度には多額の臨時支出が予定されており、更に厳しい状況となるのは確実である。



公立豊岡病院組合立病院の概要（平成18年1月1日現在）

	公立豊岡病院	公立日高病院	公立出石病院	公立梁瀬病院	公立和田山病院
設置年月日	明治4年7月	昭和22年9月	昭和25年12月	昭和37年9月	昭和42年7月
所在地	豊岡市戸牧1094	豊岡市日高町 岩中81	豊岡市出石町 福住1300	朝来市山東町 矢名瀬990-1	朝来市和田山町 竹田2021
病院長	竹内 秀雄 （泌尿器科）	金子 巖 （外科）	青木 孝文 （外科）	木山 佳明 （外科）	野垣 秀和 （脳神経外科）
併設施設等					
	兵庫県但馬救命救急センター 精神科デイ・ケアセンター 兵庫県但馬老人性認知症センター	健診センター 人工透析センター (64床)			朝来市和田山 訪問看護ステーション
病床数	500床	150床	55床	50床	139床
一般	431 (11詰)	110 (2詰)	55 (1詰)	50 (1詰)	103 (2詰)
精神	65 (1詰)				
感染症	4				
療養		40 (1詰)			36 (1詰)
一日当り患者数（H16実績)					
入院	507人	87人	53人	39人	123人
外来	1,428人	427人	180人	186人	234人
職員数（正規）	644人	174人	51人	47人	115人
医師	82	10	4	5	9
看護職	383	104	29	28	72
看護師	353	96	28	25	71
准看護師	30	8	1	3	1
医療技術職	96	32	11	6	18
薬剤師	15	5	2	2	4
検査技師	25	10	2	1	2
放射線技師	22	5	2	2	4
他	34	12	5	1	8
事務職	39	13	4	5	7
その他	44	15	3	3	9
調理師	25	10	3	2	6
診療補助	6	2	0	1	2
家政	7	2	0	0	1
他	6	1	0	0	0
標榜診療科	32科	9科	7科	3科	12科
	・総合内科・精神科・神経内科 ・呼吸器科・消化器科・循環器科 ・リウマチ科・内分泌糖尿内科 ・血液内科・小児科・新生児科 ・外科・整形外科・形成外科 ・脳神経外科・呼吸器外科 ・心臓血管外科・皮膚科 ・泌尿器科・こう門科・産婦人科 ・眼科・耳鼻いんこう科・麻酔科 ・歯科口腔外科 ・リハビリテーション科 ・放射線科 ・化学療法科・輸血科 ・臨床病理科 ・臨床検査科・臨床栄養科	・内科 ・小児科 ・外科 ・産婦人科 ・眼科 ・整形外科 ・皮膚科 ・リハビリテーション科 ・放射線科	・内科 ・外科 ・整形外科 ・皮膚科 ・地域医療科 ・リハビリテーション科 ・放射線科	・内科 ・外科 ・放射線科	・内科 ・消化器科 ・循環器科 ・リウマチ科 ・外科 ・整形外科 ・脳神経外科 ・皮膚科 ・泌尿器科 ・眼科 ・リハビリテーション科 ・放射線科

2 公立豊岡病院

歴史的経緯

明治4年（1871年）公立病院としては全国で２番目に豊岡市小田井で開設された豊岡病院は、昭和7年(1932年)に立野に移転、70年余り後の平成17年（2005年）に現在地（豊岡市戸牧）に新築・移転した。

概要

32の診療科と、500床の病床を擁する県内屈指の規模を有し、総合的な入院・外来診療機能とともに、３次救急医療の提供、精神疾患についても地域のセンターとして機能するなど、但馬地域の基幹病院として位置付けられる。

患者動向

入院患者数はほぼ安定しているが、外来患者数は長期投薬等の影響などにより、徐々に減少している。

また、北但馬地域からの患者のほか、県内の構成市以外の市町や、京都府から多くの患者を受け入ている。

医師の状況

主として４つの大学から医師が派遣されている。

医師数は、2年前の77名から82名に増えているが、2名は救急の専属医師、また、3名は小児科の増員分であり、外科・一般内科・麻酔科等については慢性的に医師が不足している。

また、大学からの医師の引き上げ要請が来ている診療科もあり、他の組合立病院と同様、現在の体制が維持できるかどうかは不透明な状況である。

現状の問題点

豊岡病院は、病院移転に伴い、急性期医療を中心とした、重症患者の早期回復を図る医療に重点を置く方向を目指している。

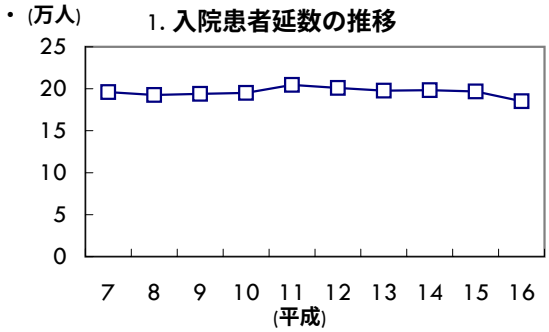
しかし一方で、周辺の病院における深刻な医師不足による入院・救急医療の縮小の影響を受け、患者の豊岡病院への集中傾向が大きくなり、入院ベッドの空きがない状況が続いている。

また、住民の要望の高い「小児救急」を実施するためには、更に数名の小児科医の確保が必要である。

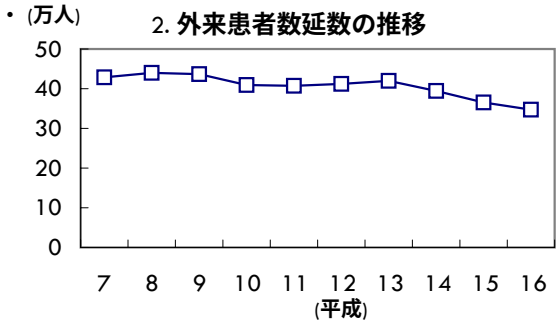
その他、医療情報システムの確実な運用など、基幹病院として充分な機能を果たすため解決すべき多くの課題がある。

公立豊岡病院

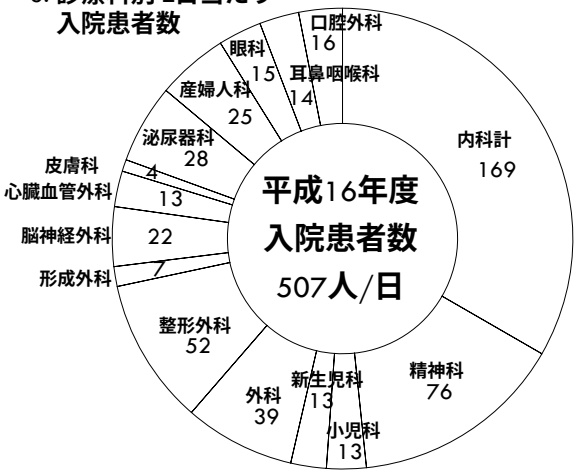
1. 入院患者延数の推移



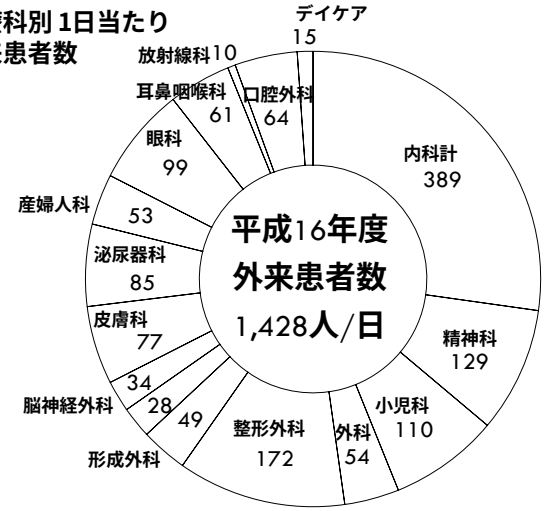
2. 外来患者数延数の推移



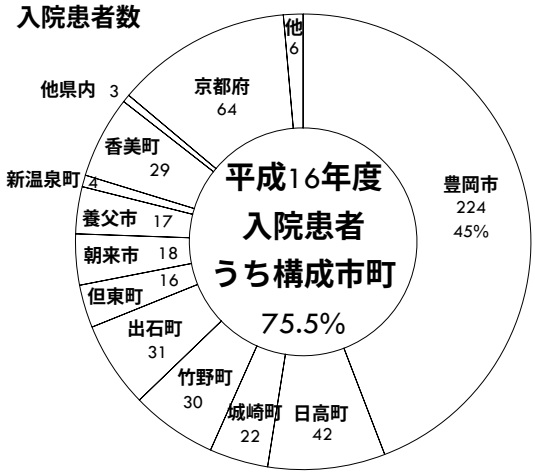
3. 診療科別 1日当たり 入院患者数



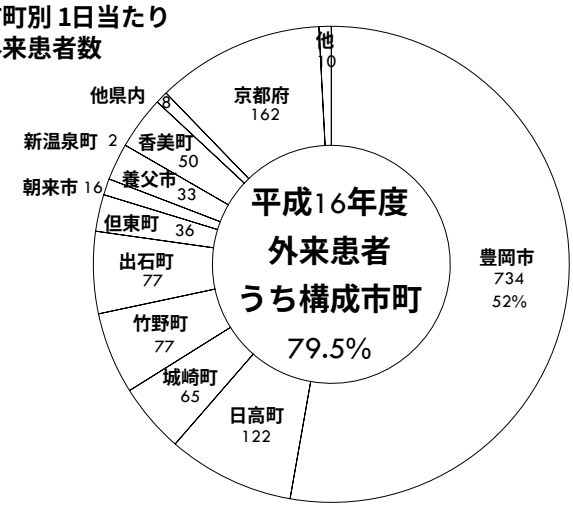
4. 診療科別 1日当たり 外来患者数



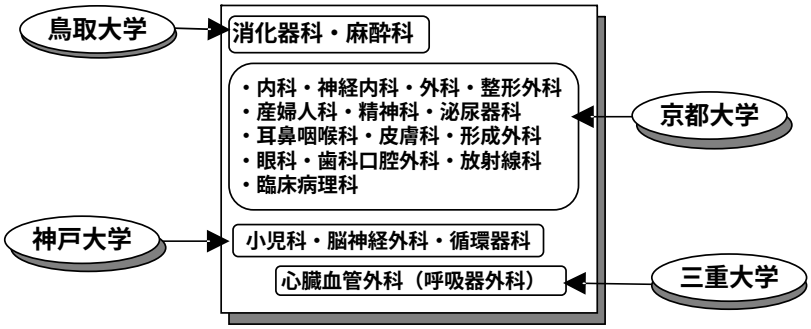
5. 市町別 1日当たり 入院患者数



6. 市町別 1日当たり 外来患者数



7. 医師派遣元の状況



3 公立日高病院

歴史的経緯

昭和22年（1947年）「公立豊岡病院日高分院」として新設（20床）。昭和40年（1965年）「公立日高病院」に改称、日高地区を中心に循環器疾患予防検診に力を注ぐ。昭和52年（1977年）には但馬地域で初めて人工透析を開始、平成8年（1996年）には健診センターを開設、平成17年（2005年）には療養病床40床を設ける。

概要

一般病床110床及び療養病床40床・健診センター（6名宿泊可）・人工透析室（64床）・運動療法施設を備えている、循環器医療・予防医療・慢性期医療を中心とする病院である。

また、産婦人科は年間500件程度の分娩を扱っており、豊岡病院に匹敵する件数となっている。

患者数の動向

平成8年には年間5万人近い入院患者があったが、医師数の減少に伴って減少を続け、療養病床の工事に伴い病床を閉鎖した影響などにより、平成15、16年の患者数は大きく落ち込んだ。外来患者数も同様に大きく減少している。

医師の状況

全科とも神戸大学からの医師で構成され、平成8年には18名体制であった。

外科医は平成16～17年度にかけて5名全員が退職し、その後の補充がない結果、常勤の外科医はゼロとなり、現在は組合内病院からの出張医師による外来診療のみとなっている。

内科医は平成8年には9名であったが、神戸大学からの医師は3名まで減少した。組合内の医師の異動により2名補充され、現在は5名体制となっているが、今後の状況は不透明である。

産婦人科医は3月に1名退職するが、後任はなく、2名体制となる。

眼科は、平成15年度に2名体制が1名となったため、入院はなくなり、外来診療のみを行っている。

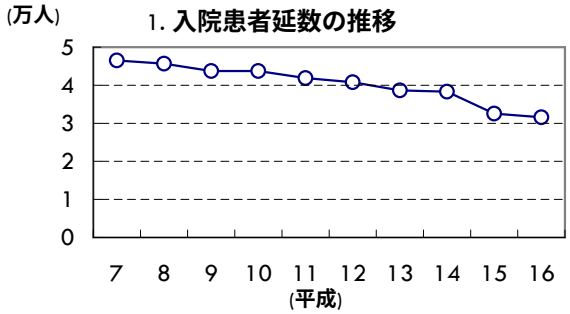
現状の問題点

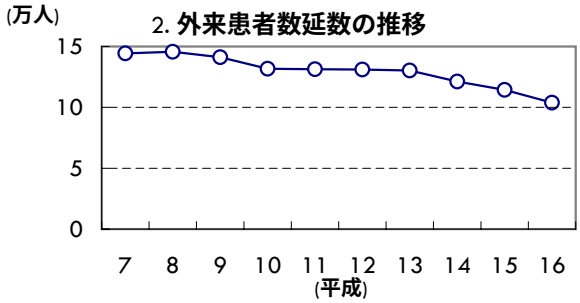
外科の常勤医師がゼロとなり、外科患者の入院、救急対応ができなくなっている。

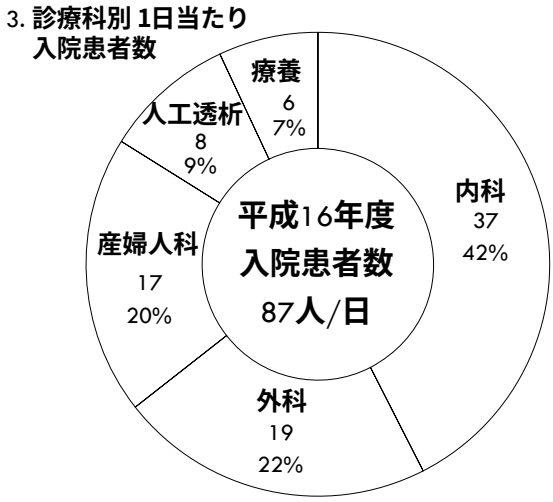
更に、内科入院患者の外科的処置（消化管出血など）の対応、健診など、外科以外の診療にも外科医の不在が大きく影響している。

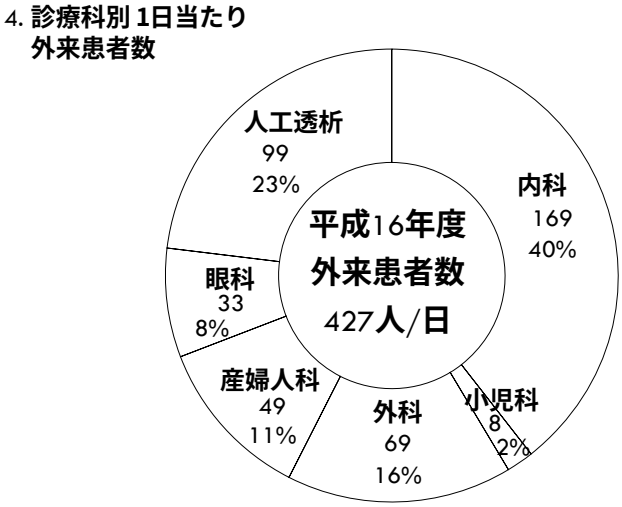
宿直・日直については、4月からは産婦人科医が2名となり、産科当直（出産等の対応のための当直）に専念する必要が生じた結果、病院全体の当直は内科医5名のみの対応となり、今以上の過重労働の発生が避けられない上、救急への対応は更に困難な状況である。

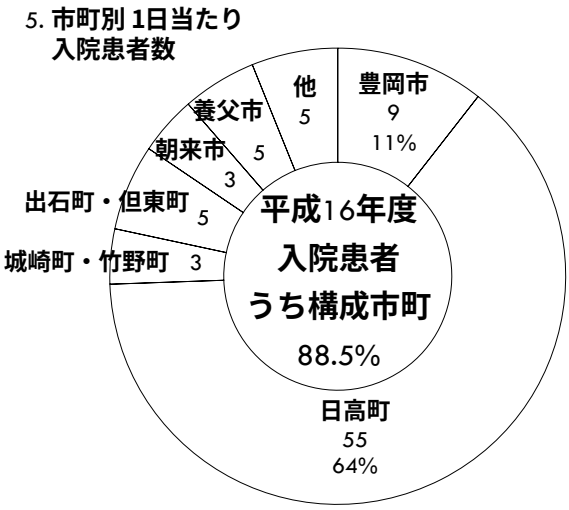
公立日高病院

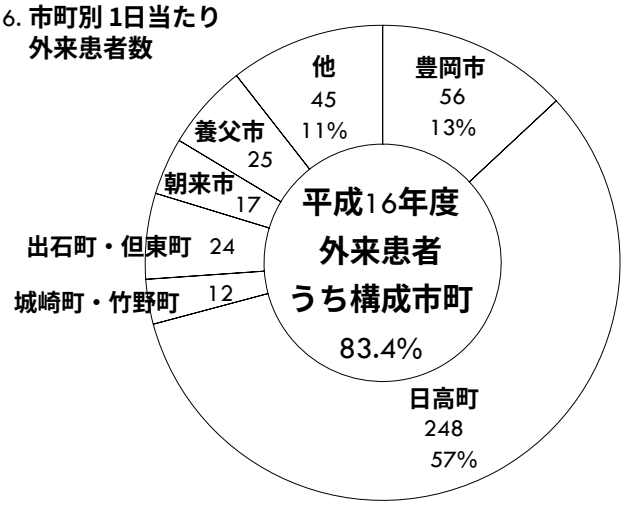

1. 入院患者延数の推移
(万人)
5
4
3
2
1
0
7 8 9 10 11 12 13 14 15 16
(平成)


2. 外来患者数延数の推移
(万人)
15
10
5
0
7 8 9 10 11 12 13 14 15 16
(平成)


3. 診療科別 1日当たり
入院患者数
平成16年度
入院患者数
87人/日
内科
37
42%
外科
19
22%
産婦人科
17
20%
人工透析
8
9%
療養
6
7%


4. 診療科別 1日当たり
外来患者数
平成16年度
外来患者数
427人/日
内科
169
40%
外科
69
16%
小児科
8
2%
産婦人科
49
11%
眼科
33
8%
人工透析
99
23%


5. 市町別 1日当たり
入院患者数
平成16年度
入院患者
うち構成市町
88.5%
豊岡市
9
11%
日高町
55
64%
城崎町・竹野町 3
出石町・但東町 5
朝来市
3
養父市
5
他
5


6. 市町別 1日当たり
外来患者数
平成16年度
外来患者
うち構成市町
83.4%
豊岡市
56
13%
日高町
248
57%
城崎町・竹野町 12
出石町・但東町 24
朝来市
17
養父市
25
他
45
11%

４ 公立出石病院

歴史的経緯

昭和25年（1950年）「公立豊岡病院出石分院」として新設（20床）。昭和40年（1965年）「公立豊岡病院組合立出石病院」に名称変更、平成10年（1998年）には鉄砲町から現在地（出石町福住）に新築・移転した。

概要

一般病床55床を有し、旧出石郡の医療の中心施設として、また医療福祉ゾーン（ホスピタリティゾーンいずし「ふれあいの里」）の中核施設としての役割を担っている。

内科・外科・整形外科を標榜し、周辺の訪問看護ステーション・老人保健施設等との連携の中で、地域に密着した医療を行う病院と位置付けられる。

慢性期の患者の治療を主として行ってきたが、平成17年度からは、急性期医療を部分的に採り入れている。

患者の動向

入院患者数はやや増加傾向（H17年度は減少見込）、外来患者数はやや減少傾向にある。

医師の状況

兵庫県からの派遣医師（自治医科大学・兵庫医科大学出身者）を主とする（現病院長は京都大学出身）。2年前の7名体制から、内科医2名、整形外科医1名が減となり、内科・外科各2名体制となった。

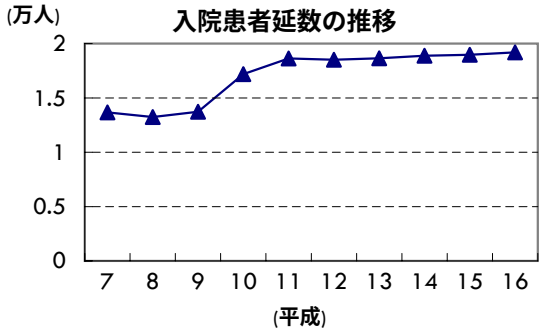
現在、外来診療については内科の一部を公立日高病院から、整形外科は丹後中央病院からの出張診療で行っている。

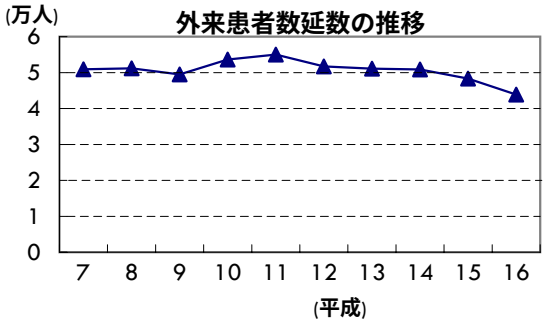
現状の問題点

宿直・日直を、医師4名で行うことは事実上不可能であり、外部の医師3名による当直応援をお願いしている状況である。

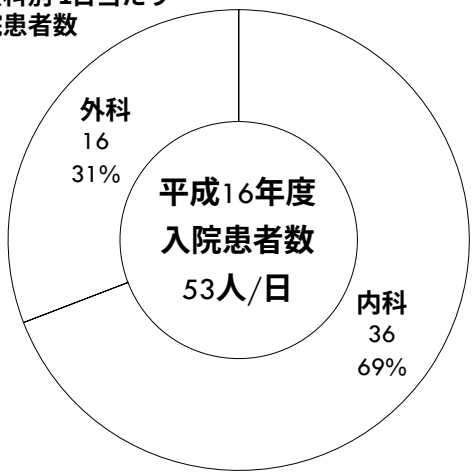
また、救急医療については基本的に豊岡病院での対応となるなど、医師不足により診療機能が大きく低下している。

公立出石病院

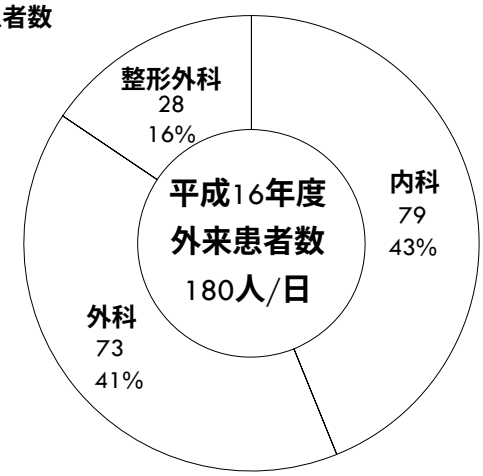




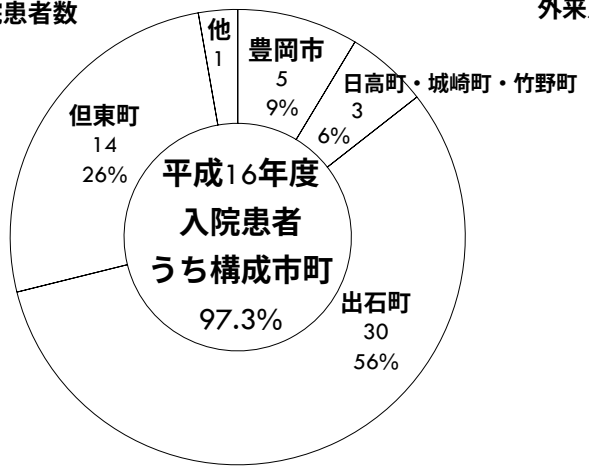
3. 診療科別 1日当たり
入院患者数



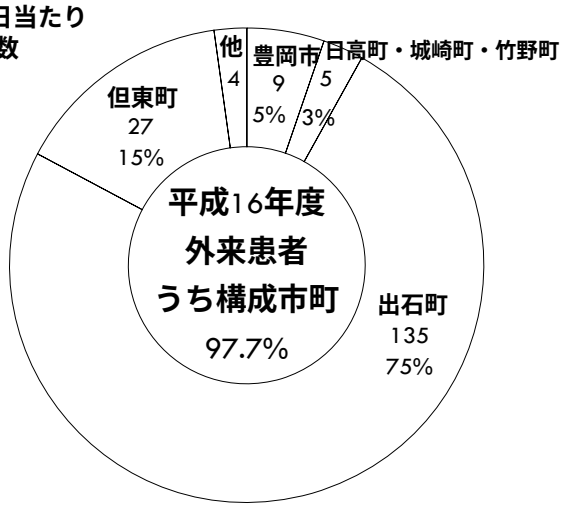
4. 診療科別 1日当たり
外来患者数



5. 市町別 1日当たり
入院患者数



6. 市町別 1日当たり
外来患者数



5 公立梁瀬病院

歴史的経緯

朝来郡4町が公立豊岡病院組合に加入した翌年の昭和37年（1962年）新設された（30床）。昭和61年（1986年）から山東町民を対象とした住民健診を開始、平成14年（2002年）には外来本館の全面改築と病棟の増改築が完成した。

概要

内科・外科・放射線科を標榜、一般病床50床を持ち、住民検診、訪問診療、訪問看護、介護保険サービス、人間ドック（日帰り）など、山東町を中心とした住民の健康増進を主眼とし、地域に密着した医療を展開している。平成17年（2005年）には救急病院として指定を受けた。

患者数の動向

入院患者数は減少傾向・外来患者数は増加傾向にあるが、ほぼ一定している。

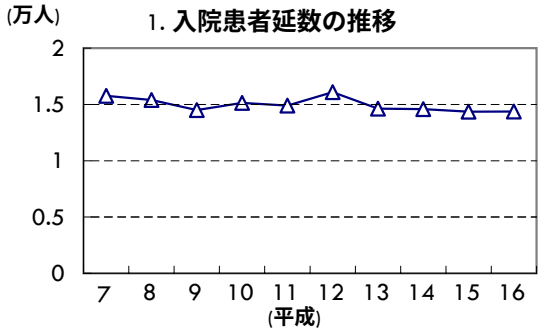
山東町と和田山町（一部）の患者が大部分を占めているが、京都府の一部（夜久野町）からの入院・外来患者も受け入れている。

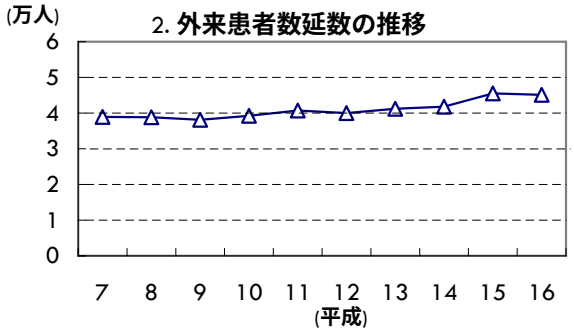
医師の状況

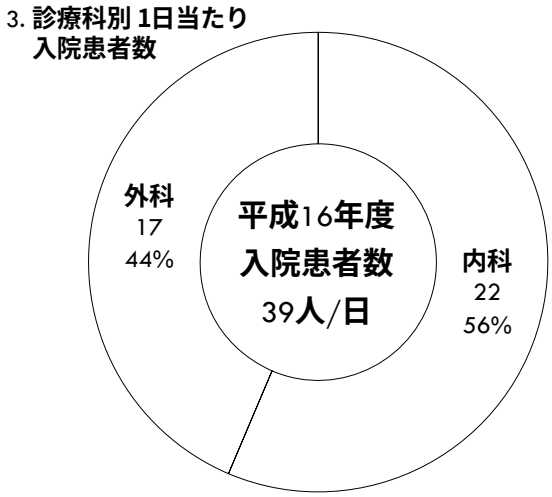
内科・外科とも、兵庫県からの派遣医師を含み、自治医科大学（栃木県）出身者で構成されている。

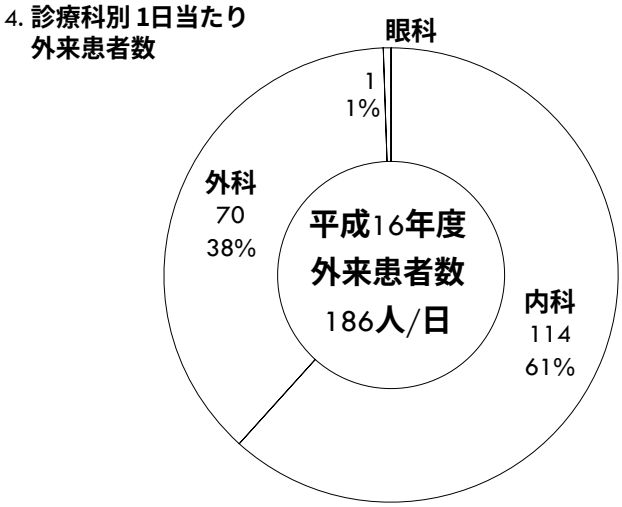
医師数は、2年前までの6名体制から、県派遣医師の減があり、現在は内科医3名・外科医2名の5名体制で診療を行っている。

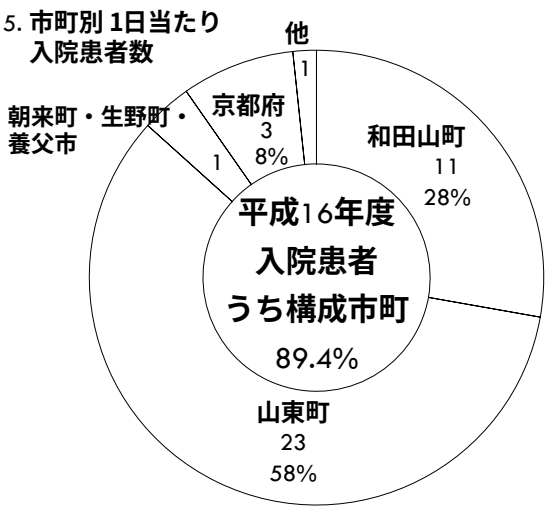
公立梁瀬病院

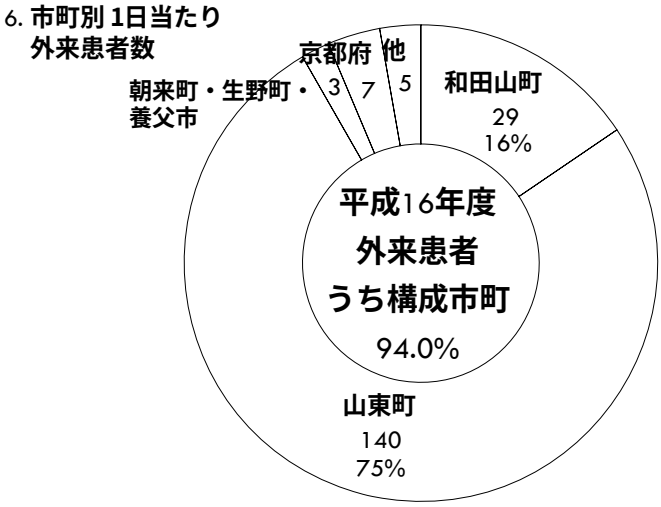

1. 入院患者延数の推移
(万人)
2
1.5
1
0.5
0
7 8 9 10 11 12 13 14 15 16
(平成)


2. 外来患者数延数の推移
(万人)
6
5
4
3
2
1
0
7 8 9 10 11 12 13 14 15 16
(平成)


3. 診療科別 1日当たり
入院患者数
外科
17
44%
内科
22
56%
平成16年度
入院患者数
39人/日


4. 診療科別 1日当たり
外来患者数
眼科
1
1%
外科
70
38%
内科
114
61%
平成16年度
外来患者数
186人/日


5. 市町別 1日当たり
入院患者数
他
1
朝来町・生野町・
養父市
1
京都府
3
8%
和田山町
11
28%
山東町
23
58%
平成16年度
入院患者
うち構成市町
89.4%


6. 市町別 1日当たり
外来患者数
京都府
3
他
7
5
朝来町・生野町・
養父市
和田山町
29
16%
山東町
140
75%
平成16年度
外来患者
うち構成市町
94.0%

6 公立和田山病院

歴史的経緯

昭和42年（1967年）「北兵庫整形外科センター」として開設された（110床）。昭和56年（1981年）から内科診療を開始し、「北兵庫内科整形外科センター」と改称、平成元年（1989年）には「公立和田山病院」に改称するとともに外科を新設した。その後、眼科・脳神経外科・泌尿器科・循環器科・皮膚科の各診療科を開設し、平成10年（1998年）和田山町訪問看護ステーションを併設、平成14年（2002年）には療養病床（36床）を開設した。

概要

一般病床103床と療養病床36床を持ち、内科・外科・消化器科・整形外科・リウマチ科・眼科・脳神経外科・泌尿器科・循環器科・リハビリテーション科・放射線科・皮膚科を標榜、その設立経緯から、整形外科・リハビリテーション医療を中心とする病院である。

患者動向

平成9年以降、入院患者数はほぼ増加傾向にある（平成17年度は減少見込み）一方、外来患者数は減少傾向にある。

病院の特徴となっている整形外科の患者数が3～4割を占め、朝来市からの患者が大部分である。ただし、入院患者については広い範囲から受け入れている状況がみられる。

医師の状況

内科は兵庫県からの派遣医師（自治医科大学・兵庫医科大学出身者）、他の診療科はほぼ全員神戸大学出身者で構成されている。

医師数については、2年前には4名であった内科医師が、神戸大学派遣医師の減により2名となり、現在全9名の医師で診療を行っている。

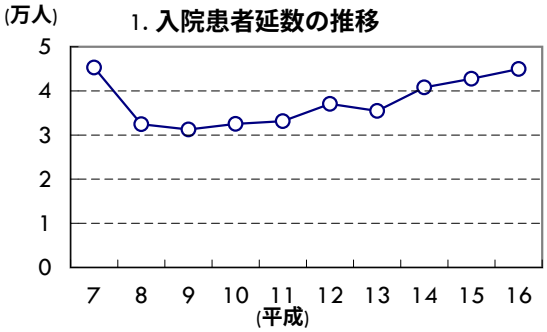
なお、内科の一部・循環器科・眼科・泌尿器科・皮膚科の外来診療は、他の組合立病院や診療所からの出張診療で行っている。

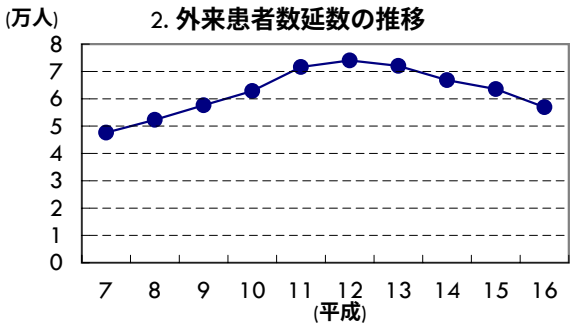
現状の問題点

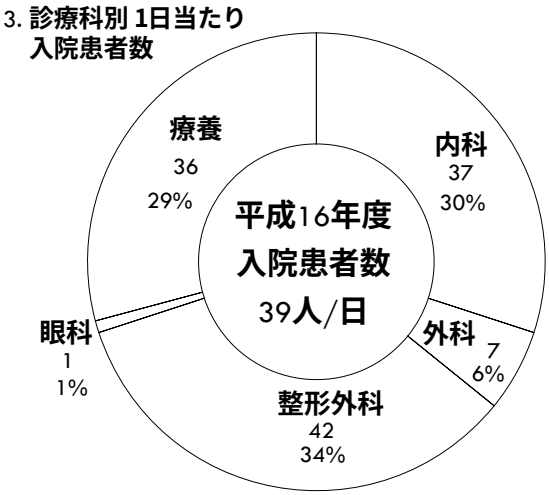
施設面では、築40年近く経った、老朽化した建物が多い。

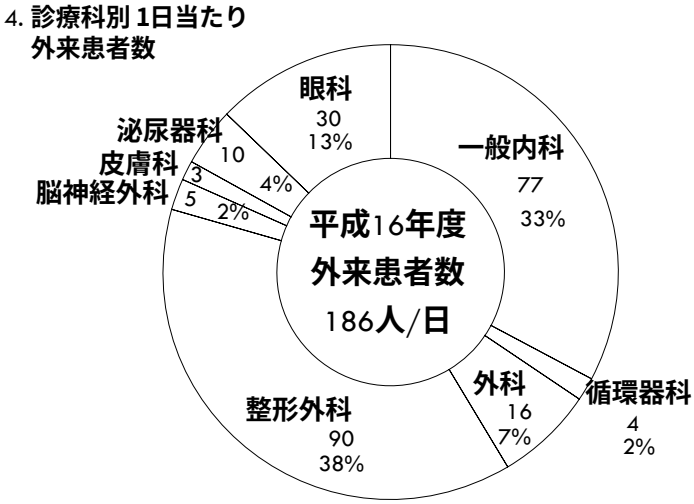
診療面では、内科については、医師数の減により、業務量が増えるなどの影響が出ている。

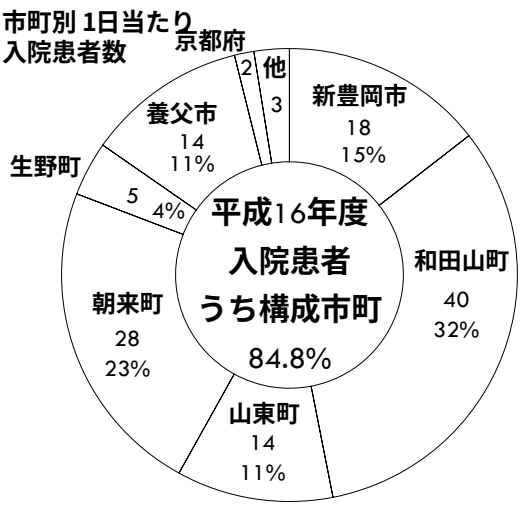
公立和田山病院

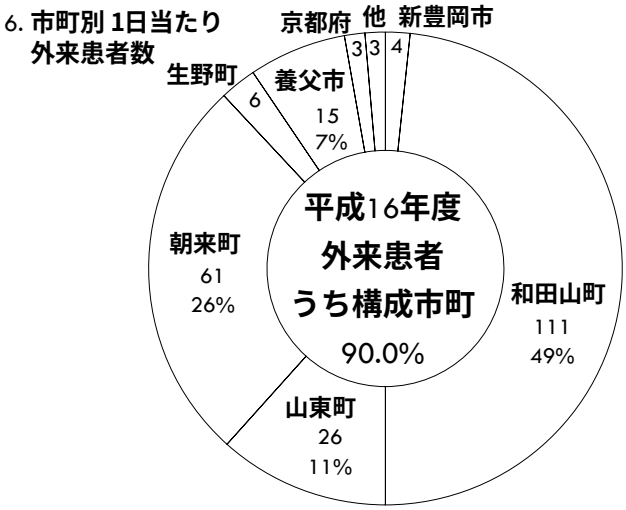

1. 入院患者延数の推移
(万人)
5
4
3
2
1
0
7 8 9 10 11 12 13 14 15 16
(平成)


2. 外来患者数延数の推移
(万人)
8
7
6
5
4
3
2
1
0
7 8 9 10 11 12 13 14 15 16
(平成)


3. 診療科別 1日当たり
入院患者数
平成16年度
入院患者数
39人/日
療養
36
29%
内科
37
30%
外科
7
6%
整形外科
42
34%
眼科
1
1%


4. 診療科別 1日当たり
外来患者数
平成16年度
外来患者数
186人/日
眼科
30
13%
一般内科
77
33%
泌尿器科
10
4%
皮膚科
3
脳神経外科
5
2%
外科
16
7%
循環器科
4
2%
整形外科
90
38%


市町別 1日当たり
入院患者数
平成16年度
入院患者
うち構成市町
84.8%
京都府
2
他
3
新豊岡市
18
15%
養父市
14
11%
生野町
5
4%
和田山町
40
32%
朝来町
28
23%
山東町
14
11%

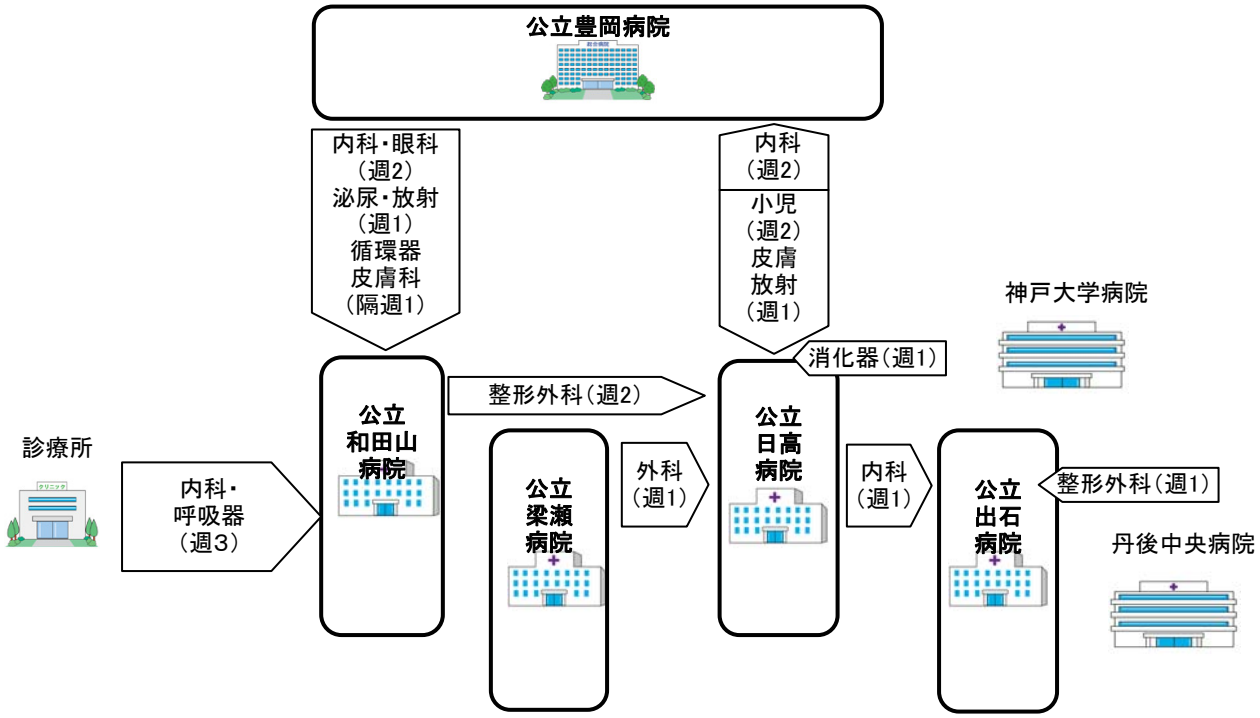

6. 市町別 1日当たり
外来患者数
平成16年度
外来患者
うち構成市町
90.0%
京都府
3
他
3
新豊岡市
4
生野町
6
養父市
15
7%
朝来町
61
26%
和田山町
111
49%
山東町
26
11%

（参考資料）

病院組合の医師数の変遷（常勤医師）

	H16年1月		H18年1月	増減
○ 公立豊岡病院	77名		82名	+5名
○ 公立日高病院	14名		10名	-4名
○ 公立出石病院	7名	⇨	4名	-3名
○ 公立梁瀬病院	6名		5名	-1名
○ 公立和田山病院	11名		9名	-2名
●うち一般内科医	19名	⇨	14名	-5名
●うち一般外科医	18名		13名	-5名

組合立病院間・他の医療機関との診療連携状況（平成18年1月現在）



医師修学資金貸与制度について

平成16年度から、但馬地域の高等学校卒業生を対象に、将来公立豊岡病院組合立病院の医師として一定期間働くことを条件に修学資金を貸与する学生の募集を開始した。

貸与金額は、6年間の場合、一人当たり約一千万円である。

貸与学生は大学卒業後、医師国家試験に合格後、公立豊岡病院組合の嘱託員として採用され、２年間の臨床研修後、専攻医として勤務する。一定期間勤務した場合は、修学資金の返還が免除となる。

現在の貸与学生は、計10名である（4年次・3年次各2名、2年次・1年次各3名）。

近隣病院の状況

○ 公立香住総合病院

- 常勤医師14名（平成13年度まで）⇒9名（平成17年度）
  ※夜間診療は午後9時まで（休養中の内科医復帰までの間）
  ※午後9時～午前7時は豊岡病院救命救急センターでの受診
- [H18.04～]　外科休診の可能性（鳥取大学派遣打ち切り）
- [H18.04～]　120床のうち40床を療養病床へ転換

○ 公立浜坂病院

- 整形外科：[H17.12]休診。[H18.01～]　週2日外来を再開。4月以降は未定。
- 小児科：[H17.05～]　全ての診療・小児救急を休診
- 耳鼻咽喉科：[H17.04～]　非常勤医師体制。
- 眼科：[H16.05～]　非常勤医師体制。手術・コンタクトレンズ外来休止
- [H18.02.23]**新聞発表**
  - 病床を110床から55床へ変更
  - 眼科診療を週4日から月1日に縮小
  - 深夜の受診の自粛を要請

○ 公立八鹿病院

- 耳鼻咽喉科：H18.01～　1名欠員、1名体制に縮小

○ 舞鶴市民病院

- [H15年度]　内科医14人のうち13人が辞職。
- [H17.05]　内科入院病棟を休止
- [H18.01]　4月を目途に民間の医療法人に運営委託が決定。
  ※療養型医療を中心に回復期・慢性期医療を継続
  ※脳神経外科は舞鶴共済病院へ

全国の自治体立病院の法人化、民営化、統廃合等の状況

(医療経営財務協会の確認による。検討中、予定を含む。)

○ 地方独立行政法人化[14例]

実例：●大阪府立病院（５病院）

○ 公設民営（民間委託）[33例]

実例：●県立リハビリテーション中央病院(県社会福祉事業団へ)
●芦屋市立病院(3診療科の委託)
●綾部市民病院(医療公社へ)
●大江町国保大江病院(医療法人財団へ)

○ (社)地域医療振興協会に管理・運営委託[11例]

実例：●公立丹南病院（福井県）
●市立奈良病院

○ 民営化（民間への委譲）[15例]

実例：●精華町国保病院（京都府）（民間医療法人へ）
●生駒総合病院（奈良県）(近畿大学等)

○ 統廃合[18例]　　○ 廃止[2例]